

基準 4 学生の受入

(1) 観点ごとの分析

観点 4 - 1 - : 教育の目的に沿って、求める学生像や入学者選抜（例えば、準学士課程入学者選抜、編入学生選抜、留学生選抜、専攻科入学者選抜等が考えられる。）の基本方針などが記載されたアドミッション・ポリシーが明確に定められ、学校の教職員に周知されているか。また、将来の学生を含め社会に公表されているか。

（観点到る状況）

教育目標を達成するため、学校全体及び学科のアドミッション・ポリシーを決定し、平成18年度入学者募集要項に明記し入試を実施した。平成19年度入学者選抜では、中学生にわかりやすくするため記載事項を一部改正した。準学士課程入学者について資料 4 - 1 - - 1 に示す。

資料 4 - 1 - - 1

「準学士課程入学者選抜のアドミッション・ポリシー」

3. 学生受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

岐阜工業高等専門学校は

1. 科学技術に夢を託し、人類愛と郷土愛に目覚めること。
2. 国際性豊かで世界に羽ばたく気概を持つこと。
3. 情報化社会の最前線で活動すること。

を教育理念とし、本科 5 年間で専攻科 2 年間にわたって一貫した教育課程のもとで、人間性豊かな倫理観を備えた技術者の育成を目指します。

岐阜工業高等専門学校の本科は、

- ・ 広い視野を持ち、自立心と向上心に富み、教養豊かで心身ともに健康な技術者の育成
- ・ 基礎学力を身につけ、創造力、応用力、実践力を備えた技術者の育成
- ・ 国際コミュニケーション能力と先端情報技術を駆使する能力を備えた技術者の育成
- ・ 工学技術についての倫理観を有した技術者の育成
- ・ 教育研究活動を通じて社会へ貢献できる技術者の育成

を教育目標としています。これらの目標を達成できる資質を持った人の応募を期待し、以下のような能力を総合的に身につけている人を受け入れます。

- ・ 基礎学力及び幅広い能力がある人
- ・ 「英語」、「国語」及び理系科目が得意な人
- ・ 何事にも積極的に取り組むことができる人
- ・ 倫理観のある人

各学科で受け入れたい人物像

機械工学科

- 1) 数学と理科を得意科目とし、広く「ものづくり」に興味があり、自動車などの生活に役立つ機械を設計・製作する機械技術者になることを強く希望している人
- 2) 目標を達成することの喜びを知り、たゆまない努力をする覚悟のある人

電気情報工学科

- 1) 電気・電子・情報関連の技術に興味のある人や、エネルギーや地球環境などの問題解決に挑戦したい
 2) いろいろなことに好奇心旺盛でアイデアや創造力が豊かな人、それらの思いを行動に移し、挑戦できる人

電子制御工学科

- 1) 数学や理科及び英語を得意とし、ものづくりに関心があり、ロボットなど電子制御システムに関わる技術者になることを強く目指す人
 2) 環境に配慮した電子制御システムづくりに積極的にチャレンジし、好奇心旺盛で向上心があり粘り強くがんばることのできる人

環境都市工学科

- 1) 自然と調和した社会基盤（道路・鉄道・エネルギー・上下水道など生活や産業を支えているもの）の整備と、自然災害に強い安全な都市の創造について学びたい人
 2) 公共事業にたずさわる技術者として社会に貢献したい人
 3) 元気がありリーダーシップを発揮できる人

建築学科

- 1) 技術・家庭および美術が得意で、社会と文化にも関心をもち、建築に関わる技術者になることを強く目指している人
 2) 環境との関わりを考えつつ、多種多様な意見をまとめ、個性豊かな建築をデザインしたい人

（出典 平成19年度岐阜工業高等専門学校入学者募集要項）

編入学者について資料 4 - 1 - - 2 に示す。

資料 4 - 1 - - 2

「編入学者選抜のアドミッション・ポリシー」

2 学生受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

本校では、本科第4・第5学年と専攻科の2年間を通して新たな教育プログラムが設定されています。これを「環境システムデザイン工学教育プログラム」と呼んでいます。本科4年生に編入すると、本科2年間と専攻科2年間で一貫した教育プログラムのもと、国際的な技術者としての素養を身につけるよう学習を行います。このプログラムにおいて育成しようとする能力は、

- ・得意な専門分野を持ち、またこれと異なる分野の技術も理解できる能力
- ・機械、電気、電子、情報、建築、都市などの機能を複合したシステムを構築できる能力
- ・人間の感性や環境の特性などを配慮したものづくりができる能力
- ・情報技術と英語を駆使し、国際的な場で指導力を発揮できる能力

このため次のような人の応募を期待しています。

- ・基礎学力の修得に努めており、さらに専門の知識を身につけたい人
- ・好奇心が旺盛で、常に知識を獲得し、能力の開発を目指して努力する人
- ・学んだ知識を活用し社会に貢献したい人

【機械工学科】

機械工学科では、「地球に優しいものづくり」を標語としており、これを実現する意欲と幅広い素養のある機械技術者の育成を目標としています。そのため、本学科では以下の意欲と素養を持つ人を求めています。

- 1) 数学・物理（特に力学）・情報技術を得意とし、機械技術分野、特に「ものづくり」分野に強い関心があり、社会に貢献できる機械技術者となるための継続的な努力のできる人
- 2) 目標を達成するための課題を自ら見出し、これをデザイン能力、及びコミュニケーション能力により解決することができる機械技術者を指す人

【電気情報工学科】

電気情報工学科では、本科4・5学年の学生に対しては電気電子工学コースと情報工学コースの、2つのコース別カリキュラムを提供しています。そのため編入学生に対しても、いずれかのコースを選択することにより、その専門性と幅広い基礎知識の確立を両立させています。本学科では以下のような意欲と素養を持つ人を求めています。

- 1) 電気・電子・情報工学に関する幅広い基礎知識の修得を目指し、エネルギーや地球環境などの問題解決や物作りに挑戦したい人
- 2) 電気・電子工学の主要な基礎知識を理解でき、情報工学に関係した最新知識や技術の習得を目指す、創造性豊かな人
- 3) ベンチャー精神旺盛で、国際的な場での活躍に興味のある人

【電子制御工学科】

電子制御工学科では、環境に配慮した知的システムを創造的に構築し、さらに発展させるための機械、電気・電子、情報技術を総合的に、かつ柔軟に駆使することのできる技術者の育成を目標としています。そのために、本学科では何事にも積極的にチャレンジする意欲のある以下のような人を求めています。

- 1) 工学、情報技術を得意とし、電子制御技術の根幹である電気・電子、情報・制御、機械関連の分野に関心があり、幅広い専門知識を身に付け社会に貢献できる技術者を指す人
- 2) 意欲的かつ実践的に課題に取り組み、柔軟にかつ創造的に解決できる能力を素養として持ってい

る人

〔環境都市工学科〕

環境都市工学科では、自然と調和した社会基盤（道路・鉄道・エネルギー・上下水道など生活や産業を支えているもの）の整備と、自然災害に強い安全な都市の創造について学習します。環境都市工学の対象とする事業は、公共性が強いこと、スケールが大きいこと、自然環境への配慮が必要であること、多くの人々と共同作業であること、などが特徴として挙げられます。これらのことを踏まえ、環境都市工学科では以下のような高校生の皆さんの応募を期待しています。

- 1) エンジニアの公務員として社会に貢献したい人
- 2) リニア中央新幹線や中部国際空港などのスケールの大きなものを創りたい人
- 3) 自然と共生した社会のあり方に興味があり、かつリーダーシップを発揮できる人

〔建築学科〕

建築学科では、人間が社会生活を営む空間を構築するために建築・都市空間の構成技法、環境調整及び構造安全性に関する技術と教養並びに、れそらを総合化する能力を有する技術者の育成を目標としています。そのため、本学科では以下のような意欲と素養を持つ人を求めています。

- 1) 工学、情報技術を得意とし、社会と文化並びに芸術の分野に関心があり、幅広い専門知識を身につけ社会に貢献できる技術者を目指している人
- 2) 自ら課題を提起し、それをデザイン能力とコミュニケーション能力により解決できる柔軟な思考力を素養として持っている人

（出典 平成18年度岐阜工業高等専門学校編入学者募集要項）

専攻科入学者選抜のアドミッション・ポリシーについて資料4 - 1 - - 3に示す。

資料4 - 1 - - 3

「専攻科入学者選抜のアドミッション・ポリシー」

5 専攻科の教育方針および受入方針（アドミッションポリシー）

専攻科では、本校の教育理念を基にして、本科で修得した専門分野をさらに深めるとともに、これと異なる分野の技術システムを理解して、機械、電気、電子、情報、建築、都市などの機能を複合したシステムを人間の感性や環境の特性などを配慮しつつ開発する能力や、情報技術と英語をツールとして駆使しながら国際的なフィールドで指導力が発揮できる総合的な力を持つ技術者を養成することを目指します。

この方針に基づいて、専攻科の各専攻では当該専攻が扱う分野の学習を通して、以下の能力の育成・涵養を目指します。

電子システム工学専攻

- (1) 資源・エネルギーの有効利用及び環境への配慮等を意識し、自然環境と共生・調和したヒューマンフレンドリーな知的機能システムを開発する能力。
- (2) 機械工学、電気情報工学、あるいは電子制御工学のより確かな専門知識とそれを応用する能力。
- (3) 異分野のシステム・技術を理解し、これと自らの分野にまたがるシステムを構築する能力。

そのため、本専攻では以下のような人を求めています。

- 1) 機械、電気情報、電子制御の分野を、総合的に深く学びたい人
- 2) 出身分野の知識を生かしつつ、ヒューマンフレンドリーな知的機能システムを開発する意欲のある人

る人

建設工学専攻

- (1) 自然環境と共生・調和した循環型社会の創造や社会生活を営む空間の構築とそれらを自然災害から守る防御システムの構築等を達成するための発展的思考力。
- (2) 環境都市工学あるいは建築学の得意とする専門分野を深めるとともに、設計・システム、情報・論理、社会技術等の基礎知識を応用する能力。
- (3) 異分野のシステム・技術を理解し、自主的・継続的に学習する能力。

そのため、本専攻では以下のような人を求めています。

- 1) 環境都市工学、建築学に関する主要な基礎知識を理解でき、幅広い専門分野を身につけて社会に貢献できる技術者を目指している人
- 2) 先端技術、社会と文化、芸術などの他分野に関心があり、自ら提起した課題に対して取り組む姿勢と、柔軟かつ創造的に解決できる思考力を素養として持っている人

（出典 平成19年度岐阜工業高等専門学校専攻科学生募集要項）

アドミッション・ポリシーは教員会議で周知している。資料4 - 1 - - 4に示す。

資料4 - 1 - - 4

「アドミッション・ポリシーの周知」

学校のアド ミッションポ リシー	<p>準学士課程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力及び幅広い能力がある人 ・「英語」,「国語」及び理系科目が得意な人 ・何事にも積極的に取り組むことができる人 ・倫理観のある人
	<p>第四学年編入学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の修得に努めており,さらに専門の知識を身につけたい人 ・好奇心が旺盛で,常に知識を獲得し,能力の開発を目指して努力する人 ・学んだ知識を活用し社会に貢献したい人
	<p>専攻科課程</p> <p>(電子システム工学専攻)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機械,電気情報,電子制御の分野を,総合的に深く学びたい人 ・出身分野の知識を生かしつつ,ヒューマンフレンドリーな知的機能システムを開発する意欲のある人 <p>(建設工学専攻)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境都市工学あるいは建築学に関する主要な基礎知識を理解でき,幅広い専門分野を身につけて社会に貢献できる技術者を目指している人 ・先端技術,社会と文化,芸術などの他分野に関心があり,自ら提起した課題に対して取り組む姿勢と,柔軟かつ創造的に解決できる思考力を素養として持っている人
学科別のアドミッション・ポリシー	
機械工学科	
準学士課程	<ul style="list-style-type: none"> ・数学と理科を得意科目とし,広く「ものづくり」に興味があり,自動車などの生活に役立つ機会を設計・製作する機械技術者になることを強く希望している人 ・目標を達成することの喜びを知り,たゆまない努力をする覚悟のある人
編入学	<ul style="list-style-type: none"> ・数学・物理(特に力学)・情報技術を得意とし,機械技術分野,特に「ものづくり」分野に強い関心があり,社会に貢献できる機械技術者となるための継続的な努力のできる人 ・目標を達成するための課題を自ら見出し,これをデザイン能力,及びコミュニケーション能力により解決することができる機械技術者を目指す人
電気情報工学科	
準学士課程	<ul style="list-style-type: none"> ・電気・電子・情報関連の技術に興味のある人や,エネルギーや地球環境などの問題解決に挑戦したい人 ・いろいろなことに好奇心旺盛でアイデアや創造力が豊かな人,それらの思いを行動に移し,挑戦できる人

編入学	<ul style="list-style-type: none"> ・電気・電子・情報工学に関する幅広い基礎知識の修得を目指し、エネルギーや地球環境などの問題解決や物作りに挑戦したい人 ・電気・電子工学の主要な基礎知識を理解でき、情報工学に関係した最新知識や技術の修得を目指す、創造性豊かな人 ・いろいろなことに好奇心旺盛でアイデアや創造力が豊かな人、それらの思いを行動に移し、挑戦できる人
電子制御工学科	
準学士課程	<ul style="list-style-type: none"> ・数学や理科及び英語を得意とし、ものづくりに関心があり、ロボットなど電子制御システムに関わる技術者になることを強く目指す人 ・環境に配慮した電子制御システムづくりに積極的にチャレンジし、好奇心旺盛で向上心があり粘り強くがんばることのできる人
編入学	<ul style="list-style-type: none"> ・工学、情報技術を得意とし、電子制御技術の根幹である電気・電子、情報・制御、機械関連の分野に関心があり、幅広い専門知識を身に付け社会に貢献できる技術者を目指す人 ・意欲的かつ実践的に課題に取り組み、柔軟にかつ創造的に解決できる能力を素養として持っている人
環境都市工学科	
準学士課程	<p>環境都市工学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然と調和した社会基盤(道路・鉄道・エネルギー・上下水道など生活や産業を支えているもの)の整備と、自然災害に強い安全な都市の創造について学びたい人 ・公共事業にたずさわる技術者として社会に貢献したい人 ・元気がありリーダーシップを発揮できる人
編入学	<ul style="list-style-type: none"> ・自然と調和した社会基盤の整備と、自然災害に強い安全な都市の創造に関する幅広い専門知識の修得を目指す人 ・プロジェクトのリーダーとしてリーダーシップを発揮し、身につけた幅広い専門知識を実践的に活用できる能力を素養として持っている人 ・公共事業にたずさわる技術者として社会に貢献したい人
建築学科	
準学士課程	<ul style="list-style-type: none"> ・技術・家庭および美術が得意で、社会と文化にも関心を持ち、建築に関わる技術者になることを強く目指している人 ・環境との関わりを考えつつ、多種多様な意見をまとめ、個性豊かな建築をデザインしたい人
編入学	<ul style="list-style-type: none"> ・工学、情報技術を得意とし、社会と文化並びに芸術の分野に関心があり、幅広い専門知識を身につけ社会に貢献できる技術者を目指している人 ・自ら課題を提起し、それをデザイン能力とコミュニケーション能力により解決できる柔軟な思考力を素養として持っている人
(出典 平成18年度4月教員会議資料)	

アドミッション・ポリシーを記載した募集要項は、準学士課程入学者選抜では中学596校・合計1711部、編入学者選抜では高校263校・合計329部、専攻科入学生選抜では高専短大等103校・103部配布している。中学生向け進路説明会・学校説明会(平成17年度は29回実施)ではわかり

やすい表現に直して説明（資料4 - 1 - - 5）している。

資料4 - 1 - - 5

「進路説明会におけるアドミッション・ポリシーの説明」

ものづくりが好き

数学，理科が好き

英語が得意

環境や福祉に興味がある

そんなあなたの入学をまっています

募集要項の受け入れ方針をよく読んでください。

（出典 進路説明会パワーポイント資料）

編入学者に対する公表については，編入学者説明会の挨拶の資料を資料4 - 1 - - 6に示す。

資料4 - 1 - - 6

「編入学者への説明」

平成18年度編入学生募集説明会 挨拶と説明内容

教務主事の稲葉でございます。皆様，暑い中，おいでいただきありがとうございます。

本校は2003年度に後で述べますJABEE認定校となり，編入学についても，入学受入方針にあった学生の選抜及びその後の教育が義務付けられています。本日は本校の概略と平成18年度編入学生の募集について本校の基本方針等をご説明したいと思います。

それでは早速，募集要項をご覧ください。本校の教育目標と編入学者受け入れ方針について，まず，説明したいと思います。

（募集要項でアドミッションポリシーについて説明する）

（出典 編入学者説明会挨拶）

アドミッション・ポリシーの教職員への周知に関するアンケート結果を資料4 - 1 - - 7に記す。

資料4 - 1 - - 7

「アドミッション・ポリシーの教職員への周知状況」

教務会議（第25回）資料

アドミッションポリシーに関するアンケート（教職員）

設問

入学者募集要項には本校の受け入れ方針（アドミッションポリシー）が記載されていました。内容をご存知ですか？

編入学者募集要項には本校の受け入れ方針（アドミッションポリシー）が記載されていました。内容をご存知ですか？

専攻科生募集要項には受け入れ方針（アドミッションポリシー）が記載されていました。内容をご存知ですか？

基準

5：よく知っている。 4：だいたい知っている。 3：何とか知っている。

2：あまり知らない。 1：全く知らない。

各段階の回答者率（％），平均は段階の平均値

目標	教 員						職 員					
	5	4	3	2	1	平均	5	4	3	2	1	平均
本科	16.1	32.3	29.0	9.7	12.9	3.3	9.1	18.2	9.1	45.5	18.2	2.5
編入学	12.9	25.8	32.3	12.9	16.1	3.1	0	27.3	9.1	45.5	18.2	2.5
専攻科	9.7	32.3	29.0	12.9	16.11	3.1	0	18.8	0	45.5	36.4	2.0

周知方法

募集要項配布：教員・職員関係者

（出典 教務会議（第25回）資料）

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程入学者選抜，編入学者選抜及び専攻科入学者選抜についてアドミッション・ポリシーを定め募集要項に記載している。表現は具体的であり，社会にわかりやすいものである。

教員には年度初めの教員会議において周知している。アドミッション・ポリシーを記載した募集要項を全教員に配布している。職員には教員会議に出席している課長より係長を通して周知している。平成17年度末のアンケート結果から，教員は何とか周知しているが，職員にはあまり周知していない。

中学生，保護者，中学校教員には，進路説明会において募集要項を配布し説明している。ホームページにも記載している。中学生には具体的にどのような資質を期待しているかを説明している。

専攻科志願者に対しては，進学ガイダンスおよび進学説明会において周知している。

以上のように，教育の目的に沿って，求める学生像及び入学者選抜（準学士課程入学者選抜，編入学生選抜，専攻科入学者選抜）の基本方針等を記載したアドミッション・ポリシーを明確に定めている。内容は学校の教職員に周知している。また，入学希望者中学生を含め社会に公表している。

観点4 - 2 - : アドミッション・ポリシーに沿って適切な学生の受入方法が採用されており，実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

（観点到に係る状況）

（準学士課程入学者選抜）

学校としてのアドミッションポリシーは下記の通りである。

- ・基礎学力及び幅広い能力がある人，
- ・「英語」，「国語」及び理系科目が得意な人
- ・何事にも積極的に取り組むことができる人，
- ・倫理観のある人

基礎学力については，「国語」「社会」「数学」「理科」「英語」，幅広い能力については，「美術」「音楽」「技術」「体育」の内申点を，推薦選抜及び学力選抜とも判定資料に用いている。

「英語」，「国語」及び理系科目が得意な人については，学力検査科目を「国語」「数学」「理科」「英語」の四科目として判定している。

何事にも積極的に取り組むことができる人，については推薦選抜の推薦要件に取り入れている。
倫理観のある人，については推薦選抜の面接の評価項目にあげている。

準学士課程入学者の募集要項を資料 4 - 2 - - 1 に示す。

資料 4 - 2 - - 1

「準学士課程入学者募集要項」

3 選 抜 方 法

選抜は、学力検査の成績、在籍（又は出身）中学校等の校長の調査書などに
基づいて行います。

(1) 学 力 検 査

ア 学力検査は筆記試験とします。

イ 検査教科は、理科・英語・数学・国語の 4 教科とします。

(つづく)

(承前)

1 出願資格及び推薦要件

推薦による入学を出願できる者は、平成18年3月に中学校又は中等教育学校前期課程（以下「中学校等」という。）を卒業見込み又は修了見込みの者で、下記要件を満たしている者のうち、在籍中学校等の校長が適格者として推薦できる者とします。

- (1) 本校への入学意志が、特に強固な者
- (2) 志望学科に対する志望動機・理由等が明確・適切である者
- (3) 学業、人物ともに優秀で、次の①又は②に該当する者
 - ① 中学校等第1学年、第2学年及び第3学年の成績（9教科）が、次に該当する者。ただし、第3学年の評定は、2学期末現在のものとします。
5段階評定の合計が116以上で、かつ数学の評定合計が13以上
 - ② 中学校等第1学年、第2学年及び第3学年の成績（9教科）がアに該当し、かつ、特別活動等の成果がイに該当する者。ただし、第3学年の評定は、2学期末現在のものとします。
 - ア 成績
5段階評定の合計が110以上で、かつ数学の評定合計が13以上
 - イ 特別活動等
次のいずれか一つ以上の成果を有する者
 - (a) 県大会又はそれと同等の大会で、3位以内に入賞した者
 - (b) 生徒会の会長又は副会長を務め功労があった者。ただし、生徒会の会長、副会長をおかない中学校にあっては、それに相当する役職を記載し、生徒会の組織図を添付すること。
 - (c) ボランティア活動で公的機関から表彰を受けた者。なお、これに該当する場合は、公的機関からの表彰状の写しを添付すること。

（出典 平成19年度入学者募集要項）

準学士課程における推薦入学者選抜検査の面接において、倫理観及び各学科のアドミッション・ポリシーとの整合性を評価する設問要領を定め実施している。設問要領を資料4-2- - 2に示す。

資料4-2- - 2

「学科のアドミッション・ポリシーとの整合性に関する面接設問要領」

不開示情報

学科のアドミッション・ポリシーとの整合性に関する面接設問要領」(つづき)

不開示情報

(出典 平成18年度推薦入学者選抜面接説明会レジュメ)

面接での評価を実施している。評価例を資料 4 - 2 - - 3 に示す。

資料 4 - 2 - - 3

「準学士課程入試面接評価例

不開示資料

(出典 平成18年度岐阜工業高等専門学校推薦入学者選抜検査面接記録書)

学力検査では面接を実施していない。志願者は学科のアドミッションポリシー等を理解し、第一志望のみ、又は第二志望までを出願時に申請する。学科のアドミッションポリシーを反映した選抜は、出願者が第一志望の学科のみ、あるいは第二志望の学科を選ぶことにより、出願時に実施されている。選抜に当たっては学校としてのアドミッションポリシーを優先して、第一志望と第二志望の区別なく、調査書（270点満点）と学力検査（400点満点）の点数の合計（670点）の高い者を入学させている。

（編入学者選抜検査）

「受け入れ方法が採用されているか」は、面接評価に取り入れている。「適切に実施されているか」は資料 4 - 2 - - 4 のようにアドミッションポリシーに沿った検査を実施している。

資料 4 - 2 - - 4

「アドミッション・ポリシーとの整合性に関する設問要領」

不開示資料

（出典 平成18年度入試運営委員会資料）

面接での評価を実施している。評価例を資料 4 - 2 - - 4 に示す。

資料 4 - 2 - - 4

「面接評価例」

不開示資料

(出典 平成18年度岐阜工業高等専門学校編入学者選抜検査面接記録書)

入試問題については実地審査閲覧資料にて示す。

(専攻科入学者選抜)

専攻科のアドミッション・ポリシーについては、小論文検査および面接検査において評価項目に上げ、点数化して評価している。選抜検査の要領を資料 4 - 2 - - 5 に示す。

「専攻科入学者選抜実施要項」

不開示資料

(出典 平成19年度岐阜工業高等専門学校専攻科入学者選抜検査実施要項)

(分析結果とその根拠理由)

選抜検査実施要項にあるように、アドミッション・ポリシーに沿った評価方法・基準を採用している。

準学士課程の推薦入学検査においては、推薦要件にアドミッション・ポリシーを反映している。内申点を推薦基準に取り入れ、アドミッションポリシーを反映した選抜である。生徒会活動やボランティア活動等も推薦要件の一つに取り入れ、何事にも積極的に取り組む人物を受け入れている。作文、面接検査の評価項目もアドミッション・ポリシーに沿った評価方法・評価基準を取り入れている。学力選抜は調査書と学力検査による総合的な判定でありアドミッション・ポリシーを反映している。学力検査科目は、四科目（英語、数学、国語、理科）入試という特徴があり学校全体のアドミッション・ポリシーに沿ったものである。出願者は第一志望のみあるいは第二志望までの学科を選ぶ。

編入学者選抜検査は学力・面接検査ともにアドミッション・ポリシーに沿ったものである。

全てのアドミッション・ポリシーに適合していなくても、幾つかを満たしていれば受け入れている。準学士課程の入学者学力選抜では調査書及び学力検査により総合的に判断し適切に実施している。また、推薦入学者選抜では面接試験の評価方法・評価基準を定めて適切に実施している。

編入学者選抜検査においても、学力検査の点数と同時、面接試験によるアドミッションポリシーへの適合性を点数評価して適切に実施している。

専攻科入学者選抜検査については、学生募集要項にアドミッション・ポリシーが掲げられ、選抜検

査実施要領において、推薦および学力のいずれの入学選抜制度においてもアドミッション・ポリシーに沿った小論文・面接検査の採点を行うシステムが構築されている。

以上のように、アドミッション・ポリシーに沿って適切な学生の受入方法を採用しており、実際の入学選抜を適切に実施している。

観点4-2- : アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証しており、その結果を入学選抜の改善に役立てているか。

(観点に係る状況)

(準学士課程)

進路変更し退学した学生や、原級留置になった学生は、アドミッション・ポリシーに適合していない要素があり、平成16年度の原級留置学生及び退学学生の入試における成績を検証した。入試制度の検証のための追跡調査(留年学生等の入試成績)を資料4-2- - 1に示す。

資料4-2- - 1

「留年・退学学生の入試成績について」

不開示資料

(出典 入試運営委員会(平成17年度第4回)資料)

分析の結果では、内申点を重視した選抜方法を取り入れることが有効であると考えられるが、継続してデータを収集して、改善を図りたいと考えている。

第二志望制について検討した。機械工学科、電気情報工学科、電子制御工学科のアドミッションポリシーは似通っており、アドミッションポリシーに沿った学生の受け入れが行われているといえるが、環境都市工学科あるいは建築学科を第二志望とする場合、あるいは、その逆の場合はアドミッションポリシーに適合していない学生を受け入れている可能性がある。

資料4 - 2 - - 2 に異なる系に第二志望で入学した学生の追跡調査の結果を示す。

資料4 - 2 - - 2

「第二志望入学者の追跡調査」

不開示資料

不開示資料（資料 4 - 2 - - 2 続き）

不開示資料（資料 4 - 2 - - 2 続き）

不開示資料（資料 4 - 2 - - 2 続き）

不開示資料（資料 4 - 2 - - 2 続き）

不開示資料（資料 4 - 2 - - 2 続き）

不開示資料（資料 4 - 2 - - 2 続き）

不開示資料（資料 4 - 2 - - 2 続き）

（出典 平成18年度入試運営委員会議事要旨）

平成17・18年度入学生の意識調査を資料4 - 2 - - 3に示す。

資料4 - 2 - - 3

「アドミッション・ポリシーとの適合性」

アドミッションポリシーに関するアンケート結果（第一・二学年）

設問

入学してみて自分はアドミッションポリシーにあっていましたか？

5：非常によくあっている。

4：だいたいあっている。

3：何とかあっている。

2：あまりあっていない。

1：全くあっていない。

各学科の平均値

アドミッションポリシーとの適合性

	機械 工学科	電気情報 工学科	電子制御 工学科	環境都市 工学科	建築学科	平均
第一学年	3.6	3.3	3.5	3.7	3.3	3.5
第二学年	2.8	3.1	3.2	2.7	3.0	3.0

（出典 平成18年教務会議（第5回）資料から抜粋）

平成18年度専攻科入学生の意識調査結果を資料4 - 2 - - 4に示す。

資料4 - 2 - - 4

「アドミッション・ポリシーとの適合性」

平成18年6月7日

アドミッションポリシーに関するアンケート調査結果（平成18年度入学生）

専攻科長

平成18年度専攻科入学生を対象に、アドミッションポリシーとの適合性についての意識調査のため、アンケートを実施した。

【調査実施日】

平成18年6月7日

【回答学生数】

1年電子システム工学専攻 13名（在籍数14名、内1名休学）

1年建設工学専攻 8名（在籍数11名）

【設問】

専攻科アドミッションポリシーに、自分はあると思いますか。

- 5 : 非常によくあっている
- 4 : だいたいあっている
- 3 : 何とかあっている
- 2 : あまりあっていない
- 1 : 全くあっていない

【調査結果】

結果の分布（5段階評価の人数と評価平均値）

	5	4	3	2	1	平均
電子システム工学専攻	0	11	2	0	0	3.8
建設工学専攻	0	1	5	1	1	2.7

（出典 平成18年度入学生の意識調査）

（分析結果とその根拠理由）

平成18年度入学生の意識調査を実施し、アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入について検証した。第一学年は進路説明会等で募集要項のアドミッションポリシーを熟読して高専の選択・学科の選択の参考にして欲しいことを強調したので、入学してきた学生もアドミッション・ポリシーとの適合性を意識した入学生が多く、入試制度は適したものであるといえることができる。第二学年は進路説明会ではあまり強調しておらず、適合していない入学生がいるように考えられるが、数値としては平均的に高い。平成18年度に実施した留年生や退学者の入試時の成績については、内申点を重視すべきであるとの結果が得られた。若干の修正により、高専により適した学生を受け入れることが可能となる。継続的にデータ収集し入試方法を改善する。第二志望制の選抜方法は問題がないと思われる。

編入学生はアドミッション・ポリシーを守り、基準を満たさない場合は合格者をださない場合があった。以上のように、入試制度の検証は充分に行っている。また、入学者選抜の改善に役立っている。

平成18年度専攻科入学者の意識調査より、入学者の多くがアドミッション・ポリシーとの適合性を意識し、入試の実施形態はアドミッション・ポリシーに沿った学生を選抜するに適したものである。

以上のように、アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入を実際に行っているかどうかを検証し、その結果を入学者選抜の改善に役立っている。

観点4 - 3 - : 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

(観点に係る状況)

実入学者数の状況を資料4-3-1に示す。

資料4-3-1

「実入学者数」

最近の志願者数・倍率及び入学者数

年度		学科	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	環境都市工学科	建築学科	計
平成16年度	学力	入学者数	30	25(1)	26(3)	27(6)	28(6)	136(16)
		志願者数	78	82	82	64	60	366
		倍率	2.6	3.3	3.3	2.4	2.1	2.7
	推薦	入学者数	10	15(2)	15(3)	13(3)	12(6)	65(14)
		志願者数	10	15	28	13	12	78
		総合倍率	2.2	2.4	2.4	1.9	1.8	2.2
平成17年度	学力	入学者数	27	27(4)	26(1)	28(6)	29(13)	137(24)
		志願者数	86	93	66	73	64	382
		倍率	3.4	3.7	2.6	2.9	2.4	3.0
	推薦	入学者数	15	15(2)	15(4)	15(11)	13(10)	73(27)
		志願者数	15	23	22	17	13	90
		総合倍率	2.5	2.7	2.0	2.2	1.9	2.3
平成18年度	学力	入学者数	34(2)	27(2)	28(2)	35(7)	28(6)	152(19)
		志願者数	91	61	50	68	56	326
		倍率	2.9	2.4	1.9	2.1	2.2	2.3
	推薦	入学者数	9	15(3)	13(1)	7(3)	15(13)	59(20)
		志願者数	9	16	13	7	16	61
		総合倍率	2.5	1.9	1.6	1.9	1.8	1.9

倍率欄は、入学定員に対する倍率を表す。

()内は女子入学者を内数で示す。

(出典 平成18年度学校案内)

資料 4 - 3 - - 2 に示すように，専攻科の実入学者数は定員の 1.5 倍程度で推移している

資料 4 - 3 - - 2

「専攻科実入学者数」

専攻科志願者数・入学者数

		専 攻	電子システム工 学専攻	建設工学専攻	専攻科計
		定 員	12	8	20
平成16年度入学 者選抜検査	学力	入学者数	9	7	16
		志願者数	47	25	72
	推薦	入学者数	9	7	16
		志願者数	9	7	16
総 合 倍 率			4.7	4.0	4.4
平成17年度入学 者選抜検査	学力	入学者数	11	8	19
		志願者数	48	22	70
	推薦	入学者数	7	5	12
		志願者数	7	5	12
総 合 倍 率			4.6	3.4	4.1
平成18年度入学 者選抜検査	学力	入学者数	2	2	4
		志願者数	34	5	39
	推薦	入学者数	12	9	21
		志願者数	12	9	21
総 合 倍 率			3.8	1.8	3.0

(出典 平成18年度学生課資料)

専攻科の指導教員数(資料 4 - 3 - - 3)は，専任教員数が学生入学定員の約 2 倍であり，専攻科用の教室は収容人数 22 名の教室が 2 室，収容人数 36 名の教室が 1 室用意されている。実験設備等は徐々に整備され，上記の学生数を受け入れることが可能な内容になっている。このように専攻科の収容能力は，現在の実入学者数をゆとりを持って受入れ可能な状態である。

資料 4 - 3 - - 3

専攻科等の概要を記載した書類

区 分	教 授		助教授		講 師		計			助 手			
	専任	兼担	専任	兼担	専任	兼担	兼任	専任	兼担		兼任		
専攻科	(認定分)	電子システム工学 専攻	13 人	7 人	13 人	6 人	2 人	人	2 人	28 人	13 人	2 人	6 人
		建設工学専攻	8	6	6	7	4		2	18	13	2	1
		両専攻(一般)		8		8		2		0	18	0	
教員組織の概要	学 科 等	機械工学科	3		5		1			9	0	0	2
		電気情報工学科	5		4		1			10	0	0	2
		電子制御工学科	5		4					9	0	0	2
		環境都市工学科	5		2		2			9	0	0	1
		建築学科	3		4		2			9	0	0	
		専門基礎	3		2					5	0	0	
		一般科	9		10		3			22	0	0	

(出典 平成17年度専攻科審査資料)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程の実入学者は定員を多くても5%ほど越えているだけでありほとんど一致している。入学辞退により定員を欠く場合は補欠操作で入学定員を確保している。編入学者選抜においては、基準に達しない場合は合格者をださない。基準に達しても現員を考慮して3名程度までにしている。

専攻科の志願者数は定員の3.0~4.4倍で推移しており専攻科への進学意欲は高い。定員を超えて合格者を決定し、専攻科の実入学者数は定員の1.5倍程度で推移している。この数は、専攻科の指導教員数および、教室等の収容能力、実験設備の整備状況等からして、適切であると判断される。

以上のように、実入学者は定員に対して適正な人数である。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

特になし。

(改善を要する点)

調査書(内申点)を重視した方が良いとのデータが出ているが、検証は始まったばかりであり、継続的に検証を行い、入試制度を改善する必要がある。

(3) 基準4の自己評価の概要

準学士課程入学者選抜及び編入学者選抜のアドミッション・ポリシー(以下、A.P.)を定め募集要項に記載している。教員会議において周知している。中学生、保護者及び中学校教員に進路説明会で募集要項を配布し説明している。ホームページにも記載している。

準学士課程の推薦入学は、内申点を推薦基準に取り入れ、A.P.を反映した選抜である。生徒会活動やボランティア活動等を要件の一つとし、何事にも積極的に取り組む人物を受け入れている。作文、面接検査の評価項目もA.P.との適合性を評価方法・評価基準を取り入れている。学力選抜は調査書と学力検査による総合判定である。検査科目は、四科目(英語、数学、国語、理科)と特徴のあるものであり学校全体のA.P.に沿っている。出願者は第一志望のみあるいは第二志望までの学科を選ぶ。編入学者選抜検査は、学力検査、面接検査の評価項目ともA.P.に沿ったものである。

入学者の意識調査では、A.P.との適合性を意識した入学者が多いことから、入試制度は適したものであるということが出来る。入試制度を検証し、留年生や退学者の入試時の成績から、内申点を重視すべきであるとの結果が得られている。継続的にデータ収集分析して、入試方法を改善する予定である。第一志望及び第二志望に関する選抜方法には問題がないと分析している。

準学士課程の入学者は定員にほとんど一致している。編入学者選抜では基準に達していない場合は合格者を出していない。基準に達していても、最大でも3名程度までにしている。

専攻科入学者選抜においても、明確なA.P.が募集要項に記載されており、教員および専攻科志願者に周知されている。選抜検査の実施に当たっては、A.P.に沿って小論文・面接検査の採点を行うシステムが構築されている。事実、専攻科入学者の多くがA.P.との適合性を意識しており、専攻科入試の実施形態はA.P.に沿った学生を選抜するのに適したものであると判断できる。

専攻科の実入学者数は定員の1.5倍程度で推移しているが、専攻科の指導教員数および、教室等の収容能力、実験設備の整備状況等からして適切な数であると判断される。